

受験生あすからセンター試験

寒波も乗り切れ!

この冬一番の寒さに見舞われる中、大学入試センター試験が14、15日の両日、全国691会場で実施される。青森県内は八戸学院大、八戸工業大(以上八戸市)、北里大獣医学部(十和田市)、県立田名部高(むつ市)など9会場で、設営の準備が着々と進む。一方、寒波の影響で雪が予想されていることもあり、受験生は勉強の追い込みに励みながら、天候にも気をもんでいる。(金澤一能)

青森県内 交通障害懸念

雪予報、早め行動を

県内は前年度より109人少ない4712人が試験に臨む。各会場は本番を前に準備が最終段階に。八戸学院大では12日、職員が案内看板の設置や机に受験番号を貼る作業に当たった。心配なのが天候だ。青森地方気象台によると、北日本の上空約5千メートルに36度以下の寒気が入り込んでいる。試験がある14、15日には、さらに強まる見通しで、県内では下北や津軽で大雪、三八上北で雪の恐れがある。最新の気象情報の確認、早めの行動、寒さ対策などを呼び掛けている。八戸市内の会場で受験する県立高校3年の女子生徒(18)は連日、学校での講習や自宅での自主学習で勉強中。そして、この一週間は家族と共に天気予報をチェックする毎日だという。気掛かりなのは雪による交通障害。試験に遅れないように、時間に余裕を持って自宅を出発するなどして「落ち着いて受けられるようにしたい」と話していた。

全国57万人挑戦

全国の志願者数は前年度より1万2198人増の57万5966人で、今春に高校を卒業する生徒のうち志願者の割合(現役志願率)は45・9%と過去最高になった。

現在の高校学習指導要領は2013年度から全面実施されているため、全教科がこの指導要領に基づいた課程に対応した問題となる。

得点調整は、地理歴史・公民、理科の一部科目間で平均点に20点以上の差があった場合に実施する。また、受験者数が1万人未満の科

目は対象外となる。14日の試験は、地理歴史・公民、国語、外国語。英語は例年通り、ICプレーヤーを使うリスニングがある。15日は理科と数学を実施。試験後の予定は、平均点の中間発表が18日、得点調整の有無の発表が20日、平均点最終発表が2月2日。



会場の準備に当たる職員12日、八戸学院大